

十和田湖を屈指の観光地に変える

世間に知られるようになるまでの長い道のり

秋田県と青森県の境にまたがる十和田湖は、十和田八幡平国立公園の中核的な存在です。十和田湖内の中山半島の根元に鎮座する十和田神社には何百年も前から参詣者が訪れていましたが、道が悪く、付近に大きな町もなかったため、十和田湖そのものは人気の観光地ではありませんでした。十和田湖が広く認知されるようになったのは、作家の大町桂月（1869-1925）が 20 世紀前半に十和田湖を訪れ紀行文を発表したことがきっかけでした。

現在では十和田湖観光の父として知られるようになった和井内貞行は、1897 年に地元の鉱山会社の仕事を辞め、魚の養殖に身を捧げました。同年、彼は十和田湖の北西に位置する銀山に旅館「観湖楼」をオープンし、率先的に十和田湖を観光客にアピールしました。1905 年にヒメマスふ化場事業が成功をおさめた後、和井内は十和田湖地域の観光開発にますます注力し、ホテルなどのインフラ建設や交通アクセスの整備を支援しました。

三大避暑地のうちの一位

1908 年に大町桂月による十和田湖の紀行文が大衆雑誌「太陽」に掲載されると、十和田湖は全国的な注目を集めるようになりました。同年に小坂鉄道が開通し、さらに和井内の 2 つ目の旅館「十湾閣」がオープンしたことも十和田湖地域のアクセスと利便性を向上させました。1909 年には観光案内が発行され、小坂には十和田湖ヒメマスの販売所もつくられました。また、和井内は十和田湖とその周辺の風光明媚な景色を知ってもらうために東京の記者団を招き始めました。1911 年、2 艘の十和田湖遊覧船が就航しました。そして、和井内十和田ホテルがオープンした 1916 年、十和田湖は中央日本新聞社の日本三大避暑地の筆頭に選ばれ、一気に知名度を高めたのでした。

【写真】

生出に移され新たに再建された観湖楼（1913 年）

発荷の十湾閣

観光船「南祖丸」の進水（1914）

和井内十和田ホテル

パネル 3 枚目「3. 十和田湖を日本一の観光地に！」②

「十和田八幡平国立公園」の誕生（国立公園編入までの経緯、和井内貞行の没年まで）